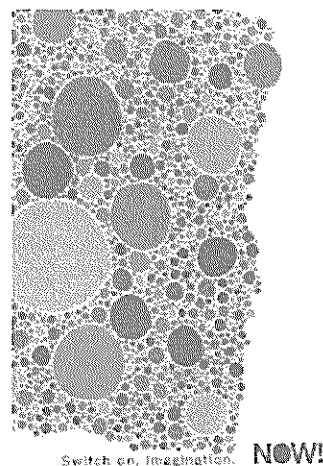
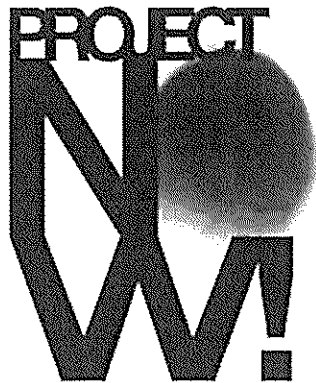


Love & Peace Lounge 2012 in Hiroshima

Birthday 02: August 3rd – 6th, 2012 @ Gallery TENGU Square

Produced by Project NOW!

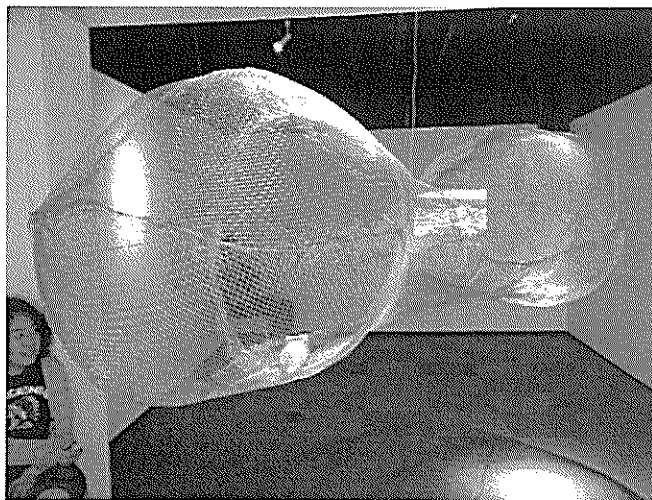
About Project NOW!: いま核廃絶に最も近いと言われている、核兵器そのものを違法とする「核兵器禁止条約」のことをよりたくさんの人に知ってもらう為、アーティストやデザイナーなどに声をかけて集まった芸術家集団。製作初期段階で決まっていたテキストがあったが、製作過程中、核兵器の存在を頭から否定する前に、まずは核について詳しく知ること、読み手がどう考えるのか？想像力を持つことがまずは大切なのでは？という視点から、「どんな人でも手に取れるアートブックを」というコンセプトで大幅に改編。広島・長崎につながりのあるアーティストたちから「核兵器と自分」というテーマで作品を公募、詩と、核兵器の最新のデータを入れ、2011年7月にこれまでにない、核兵器のガイド的アートブック「NOW!」を完成させた。これまでに5000冊を販売。以降、本だけに限らずアート展やパフォーマンスイベントなどアートを通して社会を考える場づくりをしている



イベントの目的: 8月6日当日を含めた、その前後の広島は世界各国からたくさんの人々が訪れ、その夏の暑かった一日に思いを馳せると同時に、研修、観光、式典出席と、広島を訪問する人の目的は様々である。特に8月6日当日は、式典前から平和公園はたくさんの人でごった返す。式典も厳かに執り行われるが、その後広島を訪れた人々は人ごみに圧倒されながら、行き場を失う。これで広島の本当のリアリティは伝わっているのだろうか？広島を訪れる人はどこで広島で学んだ事をアウトプットしているのか？広島に実際に住んでいる人たちと関わりはあるのだろうか？などの疑問が浮かんだ。ならば広島の人たちと交流出来、実際に被爆者の証言を聞き、また講演などの堅苦しい雰囲気ではなく、質問が飛び交うような自由な議論の場、そして、8月6日に静かにマチやヒトの事を想い、感じ、そして祈りを捧げられる場所を作ろう、ということでこの LOVE & PEACE LOUNGE を企画する事になった。

様々なプログラム: 広島をいろんな切り口で考えてもらうため、様々な企画を用意した。被爆証言はもちろんのこと、被爆証言を聞くだけではなく、被爆してからの街の復興、精神的な回復、戦後の暮らし、今に至るまでの経緯を質問形式で聞き、証言をできるだけ“カラー”で想像してもらうような企画。福島大学の生徒を数名招き、福島の現時点での課題や、彼ら若い世代が感じている事、広島に彼らが訪れる事で福島にもたらせる事、などの議論の場。福島の桃を実際に取り寄せ、目の前に置き、放射線、原発、自分たちの食の事を考える場。講師を招き、広島カープと広島街の復興の話聞く場、などを提供した。

アート展示: Project NOW!!は、Birthday というアートプロジェクトを2012年7月に立ち上げた。まず、リトルボーイの実際の寸法を使用し、形状からもインスパイアされて制作した立体作品を中心に、7月13日から16日まで、広島市立町のギャラリーヨコタにて Birthday 01 を開催。そこでは立体作品を天井から吊るし、核兵器製造に関わった側(ロバートオープンハイマーなど)のライドショーを流し、核兵器誕生について、感じ考えてもらう場をクリエイトした。そして Birthday 02 はこの LOVE&PEACE LOUNGE の中で行われた。ここでは広島がヒロシマになったあの日、そして広島という街に立つ“私”をテーマに、会場で立体作品を展示すると同時に、札(メッセージカード)を用意し、訪れる人々に「自分の大切なもの／無くしたくないもの」を書いてもらい、そのカードをその立体作品につり下げてもらった。また会場内では、広島街の復興の歴史的な写真のライドショーを流した。また、完結編である Birthday 03 は、11月17日から旧日本銀行で、広島がヒロシマになった日を0年だととらえ、ヒロシマの歴史の中の自分を時間軸で追体験する場を制作する予定。ひろしま大学の授業も行う。



祈りの場を提供： 8月6日の夜には、ワークショップを開催。ここでは立体作品を中心に円になって座り、この立体作品からインスパイアされた音楽を奏で、ヒロシマの復興の写真のスライドショーを会場で流した。そこで画用紙と画材を参加者に配布し、音楽を聞きながら、立体作品を見て感じた事、67年前のヒロシマについて感じる事を、音楽が演奏される30分間、絵にしてもらった。また出来た作品を並べお互いがどう感じているか、何を考えながら制作したか等を話し合った。また広島大学の有志のサークル“灯火”に協力を得てキャンドルを灯し、幻想的な場を作り上げる事で、静かに祈りを捧げる場を提供した。



今後の課題： 8月6日当日はたくさんの人ギャラリーに足を運んでくれたが、前日等の集客に課題。何が行われているか、等の情報を更に明確化し、ただ単に通りすぎた人でも、もっと気軽に足を運べる場所、また雰囲気作りをめざすと同時に、出来る限り早い段階での広報(今回は約1週間前)を開始できるよう努めたい。



MEMBER LIST

Birthday

11/17-20 10:20-12 00

PROD. HCM